

金の卵発掘プロジェクト2017



審査委員特別賞

今井行弘
バイオワークス代表取締役



審査委員特別賞

松崎早人
トランク代表取締役CEO

グランプリは請求書のペーパーレスを実現するサービス

第7回目を迎えたベンチャー発掘企画「金の卵発掘プロジェクト」では、バンクインボイス社長の手島太郎氏が見事グランプリに輝いた。また、審査委員特別賞はバイオワークス代表取締役の今井行弘氏と、トランク代表取締役CEOの松崎早人氏に決定した。

手島氏が発表したのは、請求書データを共有し、ペーパーレス化を実現する新たなサービス「Bank Invoice」。請求書の原本そのものを電子化し、企業間などの取引に伴うデータ入力、支払いなどを一元管理できるといった画期的なものだ。その着眼点と実用性、将来的なビジネス拡大への可能性が高く評価され、今回の受賞に至った。

バイオワークスの今井氏が発表したのは、植物由来原料100%でつくったプラスチック材料。環境に優しい製品として、今後の普及拡大が期待される。今井氏は前回のプレゼンにも登場したが惜しくも落選。今回は製品をさらにブラッシュアップ



グランプリ
手島太郎
バンクインボイス社長

し、実用化が見える段階までこぎつけた点も評価された。

トランクの松崎氏はトランクシステムの利用が手軽に行える宅配収納アプリを発表。審査委員からの評価は非常に高かったが、サービスの普及が一定レベルまで進んでいることもあり、「金の卵」と呼ぶべきステージは既に超えているのではないかと、という意見が出たため、今回は特別賞という結果となった。

例年以上にレベルが向上
最終審査は白熱の議論に

今回、審査委員を務めたのは米倉誠一郎・法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、林野宏・クレディセゾン社長、夏野剛・慶応義塾大学特別招聘教授、経営コンサルタントで作家の神田昌典・アルマクリエイションズ代表取締役、本イベントの初代グランプリ受賞者である水野雄介・ライフィズテック代表取締役CEO、佐藤有美・経済界社長、関慎夫・経済界編集局長の6人。最終審査会では活発な議論が繰り広げられた。

金の卵発掘プロジェクトの審査基準は、商品・サービスとビジネスプランがしっかりしていることに加え、起業家の熱意、社会貢献性など、あらゆる面が問われる。受賞を逃した中にも、審査委員から高い評価を受けて最終段階まで意見が割れた候補者が複数あった。

そうした中でも、バンクインボイスの手島氏はビジネスプラン、ビジョン、商品力、将来性といった総合力で頭一つ抜けていた格好だ。

好循環を生むプロジェクトに今後も期待

2017年度「金の卵発掘プロジェクト」の応募メンバーはきわめて多様に富み、そのうちの幾つかは完成度も先見性も高いビジネスプランでした。したがって、審査委員の間でも激しい議論が交わされましたが、最終的にグランプリに、バンクインボイス社長の手島太郎氏、そして審査委員特別賞にバイオワークス代表取締役の今井弘氏とトランク代表取締役CEOの松崎早人氏が決まりました。

Bank Invoiceは、企業と銀行間に交わされるさまざまな請求書・領収書をすべて電子化することによって業務の効率化を図るだけでなく、資金の流れの見える化やビッグデータ化に寄与しようというかなり本質的なビジネスアイデアでした。社長の手島



米倉誠一郎
法政大学教授・一橋大学特任教授

氏自身も選に漏れた応募者たちにも輝くものがありました。また、今回の選考でさらにうれしいニュースは、審査委員に第1回受賞者のライフィズテックの水野君が入ったことです。このプロジェクトが素晴らしい好循環を生んでいる証だと思いました。



最終プレゼンに臨んだ候補者たち(前列中央は経済界社長の佐藤有美)